

第 53 回通常総会の開催について

会長 佐々木 元

第 53 回通常総会を代表会員制度に沿って下記により開催いたします。

総会の案内状は、民法上の社員である、選挙で選出された代表会員および役員に 5 月上旬に郵送いたします。ご欠席の場合には、必ず委任状をご返送ください。

総会の議事議決権は代表会員および役員が有しますが、もちろん代表会員以外の正会員・名誉会員の皆様も、積極的に総会に出席してご発言いただきますようお願いいたします。

記

- 日 時 平成 21 年 5 月 29 日 (金) 16:00 ~ 18:00
 会 場 如水会館 (東京都千代田区一ツ橋 2-1-1)
 予定次第
1. 平成 20 年度事業報告および決算
 2. 平成 21 年度事業計画および予算
 3. 会費滞納会員の取扱い
 4. 名誉会員の推挙
 5. 平成 20 年度功績賞, 論文賞, 喜安記念業績賞, 長尾真記念特別賞の発表と表彰
 6. 平成 21 年度役員改選
 7. その他

※総会終了後、懇親会を行います。皆さまのご出席をお待ちしております。

IT の最新情報, 研究発表の場の提供を通じて, あなたのお役に立ちます

詳しくは <http://www.ipsj.or.jp/> をご覧ください

会員募集中!!

今一番新しい研究分野は何か?

IT 時代をリードしたい!

そうだ, 情報処理学会に入ろう!



申込/照会先 社団法人 情報処理学会
 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F
 Tel(03)3518-8370(会員サービス部門) E-mail:mem@ipsj.or.jp



論文誌ジャーナル掲載論文リスト Vol.50 No.4 (Apr. 2009)

【特集：ユビキタスコンピューティングシステム (II)】

- 特集「ユビキタスコンピューティングシステム (II)」の編集にあたって 暦本純一
- 軌跡情報とモーションセンサ情報による位置トラッキング手法の設計と実装 岩本健嗣 他
- 自律的トレーニングデータ収集による屋外位置情報システム 桑原雅明 他
- アノニマイズされた行動履歴に基づく行動パターン検索方式の提案 川田正明 他
- 移動型センサネットワークにおける複数ノードのための経路探索手法 中宮正樹 他
- 高度な実世界イベント認識を手軽に利用可能にする Instant Learning Sound Sensor の提案 根岸佑也 他
- 公衆ローカルネットワーク接続を考慮したモバイルルータ拡張方式の実装と評価 田坂和之 他
- 動作同期型調理ナビゲーションのためのユーザ適応型調理タスクモデル 宮脇健三郎 他
- ユビキタス環境のための光レゾルバ 常盤拓司 他

【一般論文】

- マルウェア亜種の動的挙動を利用した自動分類手法の提案と実装 堀谷啓一 他

- 仮名認証に基づいた地域交通支援システムのための位置情報プライバシー保護フレームワーク* 山崎重一郎
- Direct Density Ratio Estimation for Large-scale Covariate Shift Adaptation 坪井祐太 他
- Web から獲得した感情生起要因コーパスに基づく感情推定 徳久良子 他
- 複数モデルの統合による LDA トピックモデルの高精度化とテキスト入力支援への応用 中村 明 他
- 翻訳不適箇所指摘による翻訳リペア効率の改善効果の検証 宮部真衣 他
- キーワード蒸留型クラスタリングによる大規模ウェブ情報の俯瞰 馬場康夫 他
- On the Robustness of Information Retrieval Metrics to Biased Relevance Assessments 酒井哲也
- カメラワークを含むショット・リバースショット区間の検出 吉高淳夫 他
- "るつぼ"--- リアルタイム流体シミュレーションとインタラクティブメディアアートの新しい融合 † 平戸淳正 他
- 動的な遠近演出を可能とする香り提示手法 大津香織 他
- 古代木簡解読支援のための文字パターン検索 末代誠仁 他

* : 推薦論文 Recommended Paper

† : テクニカルノート Technical Note

おひすらん

2008年、MPEG (ISO/IEC JTC 1/SC 29/WG 11) は発足20周年を迎えました。2008年に開催されたWG 11 会合中のレセプションでは、設立時から長年貢献してきたメンバのスピーチがあったり、MPEG のアチーブメントを振り返るビデオ上映があったりと、各会合ホスト国が趣向を凝らして、20周年記念のお祝いに花を添えていました。

日本国内でも、2008年11月8日、「MPEG 発足20周年記念行事をサポートする会 (19社3大学)」の多大なるご協力の下、「MPEG 発足20周年記念行事」を開催いたしました。

WG 11 Convener の Leonardo Chiariglione 氏を始め、すばらしいゲストスピーカーを迎え、また、ISO/IEC JTC 1 議長 Scott Jameson 氏からの祝辞をいただき、参加者135名という盛大なイベントになりました (<http://www.itscj.ipsj.or.jp/forum/forum2008MPEG20.html>)。

また、MPEG は、発足20周年という意義のある年に、The Academy of Television Arts and Sciences (ATAS) から Emmy 賞を受賞しました。もう少し正確に言いますと、MPEG と ITU-T SG 16 傘下にある VCEG の合同グループである Joint Video Team (JVT) に対して、AVC High Profile (ITU-T Rec. H.264 | ISO/IEC 14496-10) の標準化活動の功績による「2008 Primetime Emmy Engineering Award」の受賞です。

MPEG はさらに、今年1月にも Emmy 賞を受賞しました。こちらは「2007-2008 Technology and Engineering Emmy Award」というもので、U.S. National Academy of Television Arts and Sciences (NATAS) から授与されました。SC 29 関連では、1996年にも Emmy 賞を受賞しているので、これが3度目の受賞となります。

日本人にとって、Emmy 賞は、アカデミー賞のテレビ版というぐらいしか馴染みがありませんが、ATAS、NATAS の公式 Web サイトによりますと、Emmy 賞は3つの関連団体により管理されており、ATAS は primetime、NATAS は daytime, sports, news, documentary その他、International Academy of Television Arts & Sciences は international を担当しています。最も権威があるのは、Primetime Emmy Awards、

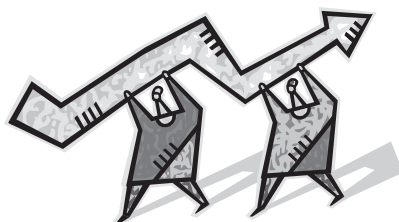
Television Academy Honors、Daytime Emmys、Los Angeles Area Awards だそうですので、2008年の Emmy 賞が上位と思われる。

今年1月の受賞に関しては、あまり知られておらず、ISO、IEC、ITU-T からプレスリリースが出ておりません。最近 ISO 中央事務局から、「2009年1月の受賞は、偽情報ではないか」という問合せを受け、私も証拠を示すために、2つある Emmy 像の写真や、Web サイトに掲載されている授賞式の模様を ISO 中央事務局に提出したぐらいです。

米国外では Emmy 賞の細かな違いはよく分かりませんが、いずれにしろ、これら2つの受賞が、MPEG 標準化活動にかかってきたメンバを喜ばせ、モチベーションを上げさせ、また今後、標準化に関するプロモーションの後ろ盾になっていくことは確かだと思います。

XX 周年の記念にしても、さまざまな賞にしても、節目節目で何かしらの recognition をしていくことは、過去を振り返るだけでなく、活動の活性化や景気づけに役立っていることを感じています。2009年は、私が学会で働き始めて10年目の年です。このメモリアルイヤーは、残念ながら、周りが recognize してくれそうもないので、自分自身で、お祝い・景気づけをしていこうと思います。

(小倉由紀子/規格部門)



創立 50 周年記念事業について

2009 年 4 月 1 日
会長 佐々木 元

情報処理学会は1960年4月22日に創立され、来る2010年には創立50周年を迎えます。これは会員一人一人の努力と、関係官公庁、学協会ならびに産業界のご支援によるものと感謝いたしております。

多様な形で拡大している情報の新たな時代の中、本会は、現在そして未来の情報社会に貢献する知識やスキルを得たいと願う、産業界、学界、教育界はじめさまざまな人々のための学会として進化していかなければなりません。

現在と未来の情報社会をリードし、情報処理にかかわるすべての方々が次の50年の夢を追えるよう、そのための礎となるような記念事業であることを願って、下記事業を計画、推進いたします。

各事業ともその詳細が確定次第、順次、皆様に会誌や本会 Web サイト等でご案内してまいります。ぜひ、会員皆様のご参加をお待ちしております。

——— 創立 50 周年各記念事業のあらまし ——— (以下、掲載は事業の開催・公開日程順)

■論文誌および研究会活動のオンライン化

論文誌ならびに研究会活動を全面的にペーパーレス化し、1) 印刷コストの低減分を購読価格などに反映させるとともに、2) 紙をなくすことで機動性が確保できる、3) 将来の新しい可能性を先取りできる、4) プログラムや画像データを論文に追加することでマルチメディア性が確保できる、5) 機関リポジトリなど著者の情報発信をより自由にする可能性を広げられるなど、オンライン化することで得られるメリットを最大限に追求することを目指して、これまでに以下を推進してまいりました。

- ～ 2007 年 3 月 論文誌のオンライン出版体制を整備
- 2007 年 3 月 論文誌(ジャーナル)投稿・査読の完全電子化の実施
- 2008 年 4 月 論文誌の完全オンライン化移行(紙媒体の出版廃止)
- 2008 年 9 月 発行後2年を超える刊行物(会誌、論文誌、研究報告)のオープンアクセス化※
※国立情報学研究所 CiNii 上で閲覧可能
- 2009 年 4 月 研究会活動のオンライン化移行(紙媒体の出版廃止)

さらに、国立情報学研究所(NII)殿の協力を得て、2010年4月には、論文誌と研究会刊行物のすべてを低価格で購読可能とする「総合デジタルライブラリ(仮称)」を実現してまいります。

■次世代型ハンドブックの刊行

オンラインで持続的に修正・拡張される次世代型のハンドブックを編纂します。2010年3月に初版を会員に公開し、さらにそれを中核とする「総合学術辞典」を他の学会とも連携して構築し、広く一般の利用に供する予定です。従来のハンドブックと違って小項目主義の辞典とし、オントロジーに基づいて項目の内部を構造化するとともに項目同士をフォーマルに関係付けることにより、高い品質と高度なサービスの実現を目指します。査読による品質管理を行い、執筆が研究者としての業績になるようにするなど、学会の他のサービスとの連携を図り、学術コミュニティと社会とのインタフェースとして成長させていきたいと考えています。

■記念全国大会

第72回全国大会を50周年記念と位置づけ、次の会期・会場にて、「コンピュータの無い社会を想像できますか?」をテーマに、多彩な企画を盛り込んで実施いたします。

企画内容や一般講演募集内容については、2009年9月以降に詳細が整い次第、順次ご案内予定です。

- 会 期 2010年3月9日(火)～11日(木)
- 会 場 東京大学 本郷キャンパス
- テーマ 「コンピュータの無い社会を想像できますか?」
- 招待講演(1): Frances Allen 氏 (IBM 名誉フェロー) * 女性初のチューリング賞受賞者
- 招待講演(2): 濱田純一氏 (東京大学 総長)

■記念会誌

会誌については、2010年5月号を記念特集号とし、これからの情報処理技術への展望をロードマップの形でまとめる記事や、画像で綴る全国大会50年(歴史特別委員会と連携)などを掲載する予定です。なお、本事業を構成するそれぞれの企画につきましては、会誌で順次紹介いたします。

■記念論文

50周年記念論文を公募し、優秀な論文を記念式典(2010年11月18日)の場で表彰します。公募の概要は次の通りです。詳細は計画が整い次第、順次ご案内予定です。

- 応募資格 情報処理学会の個人会員(共著の場合は、著者のうち最低1名が会員であること)
- 対象論文 情報処理の分野に関する邦文または英文の原著論文
- 論文形式 「情報処理学会論文誌(ジャーナル)」または Journal of Information Processing に準拠。
12ページ目安(最長20ページまで可)
- 応募締切 2010年2月1日(月)

■50年史の刊行

30年史「30年のあゆみ」以降を中心に本会50年の歴史の記録を編纂し、記念式典(2010年11月18日)にて配布いたします。

■記念式典

記念式典・記念講演・祝賀会を2010年11月18日に執り行います。

- 日程 2010年11月18日(木)午後
- 会場 明治記念館

■記念事業推進組織

50周年記念事業実行委員会(委員長:佐々木元)のもとに次の委員会を設け、記念事業を推進いたします。

- 50周年記念事業実行委員会
 - 刊行物オンライン化委員会
 - 次世代ハンドブック編纂委員会
 - 記念全国大会組織委員会/プログラム委員会
 - 記念会誌編集委員会
 - 記念論文選考委員会
 - 50年史編纂委員会
 - 記念式典実施委員会
 - 記念事業総務財務委員会

■記念事業の財務

記念事業の実施に必要な経費は、記念事業積立資産から充当いたします。

■その他

上記以外にも計画中の事業がありますが、これについては詳細が決まり次第ご案内させていただきます。

会員の広場

Member's Voice

今月の会員の広場では、1月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、特集「視覚情報の処理と利用」につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■大変、興味深い内容でした。この分野は、歴史も古く、1回の特集では紹介しきれないと思いますので、ぜひ、第2回目の企画を期待します。(匿名希望)

■生物とか知覚とか、いつもと少し違う分野のことで、昔習った理科のときのよさを感じた。究極のインターフェースは、脳とコンピュータがくっついてしまうのだと思うが、生物にはまだ謎の部分が多いようで、今後の展開が楽しみである。(匿名希望)

■大変興味深い内容であった。今後も、情報処理技術の進歩が、生物学や医学に貢献していくことを期待したい。(匿名希望)

■分野外の素人にも分かりやすい解説で面白く読ませていただきました。情報処理(学会)の対象は広範囲になり、分野外の人には分かりにくい特集が比較的多くなっている中で、久々に読みやすい特集でよかったです。論文誌ではないので、学会誌は分かりやすさが重要ではないかと思います。それがその分野に興味を持つ学生獲得にもつながるのではないのでしょうか?(匿名希望)

■視覚情報を生物がどのように処理しているかについて、興味を持って読ませていただきました。特に、昆虫の色情報処理は、初めての内容で良かったと思います。(匿名希望)

■興味深い部分もあったが、情報分野への応用というよりむしろ、純粋な生物の視覚情報処理に重心があり、面白かった一方で難解であるという印象も受けた。生物学における視覚情報処理と、我々の分野との橋渡しになるような記事、もしくは関連について記述されたものがあれば、もう少し印象は変わったように思う。(匿名希望)

■特集タイトルから「利用」という点で期待しましたが、記述がほとんどなかった点で残念です。視覚情報は道路標識等の表示問題でかなり研究されているにもかかわらず、実際の掲示物にその成果が本当に正しく適用されているか疑問に思

います。私の近くの温度表示看板は黒字に白文字から青文字に変わり、ハレーションのためか視認性が悪くなっています。デザインにおいて錯視問題は避けて通れませんが、人によって微妙に感じ方が異なるようで、この点の統計的な言及もしてほしく、同じテーマでさらに踏み込んだ(動的な錯視も含めて)記事の掲載を期待します。(匿名希望)

■なぜいま視覚情報の総論が必要かという観点はよく分かりませんでした。ただし、錯視とその情報処理については、これをうまく設計利用した安全な操作への応用など、産業やデザインでの活用事例がどうなっているのか知りたくなりました。(匿名希望)

■「昆虫による色情報の生成と利用」を読んで：色というもののは深いですね。興味深い話が多く良かったです。今度コガネムシを見かけたら円偏光板で見ようと思います。(匿名希望)

■「昆虫による色情報の生成と利用」を読んで：個人的に非常に興味深く読ませていただきました。昆虫の不思議な生態に関連して、昆虫による情報処理について読んでみたいと思います。(匿名希望)

■「錯視とその情報処理モデル」を読んで：身近に実感できる錯覚をわずかながら理解できた一方で、まだまだ謎が多く、より深く知りたいと思いました。(匿名希望)

報告「国際情報オリンピックエジプト大会参加報告」につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■自分がICPC(大学対抗プログラミングコンテスト)に関係しているため、国際情報オリンピックエジプト大会参加報告は大変興味深かった。このような国際的な場で良い成績を残すことはもちろん大事なことであるが、その活動を通して高校生・大学生に対する情報教育のあり方にどう反映させていくかが大事であることを痛感させられた。(匿名希望)

■数学オリンピックと比べて認知度が低いので広報として有益な報告であると思う。具体的な問題についてはURLを紹介していたが、1問でもよいので本文で紹介してほしい。(匿名希望)

その他の記事につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■解説「Web 2.0アプリケーションにおける代表的な攻撃手法とその対策」について：Web2.0という言葉が巷にも、すっかり浸透した今だから再認識するべきだと感じました。Web2.0の技術的特徴を基点とした内容が、大変読みやすかつ

たです。すでに知っている内容を含め、大きく全体をカバーした素晴らしい解説だと思いました。(匿名希望)

■解説「センサネットワークの新たな展開を目指して～Live E! Workshop in APNG Camp 活動報告～」について：センサネットワークの動向に関して大変参考になりました。今後もその応用に関する記事の掲載を希望いたします。(匿名希望)

■解説「多様な無線メディアを用いたユビキタス ITS の実現に向けて」について：無線を用いたネットワークは電波に起因する物理的な問題に焦点があてられがちなので、経路決定や自動コンフィグレーション等のプロトコルに関する解説も期待します。(匿名希望)

■報告「プロ棋士対コンピュータ：FIT2008 における囲碁対局報告」について：「役に立った」というより「大変興味があった」という記事でした。(匿名希望)

会誌の内容や今後取り上げてほしいテーマに関して、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

■今月の会誌は「いかにも情報処理」といった色の薄い、読みやすい記事が多く、今年度で一番好きなものになった。視

覚情報処理の特集ということで全体的に大変ふんだんにカラーページを使っていたが、p. 66 図-3などはモノクロにしたためにほとんど情報のない絵になってしまっている。カラーである必然性がない記事もあったので、カラーページとモノクロページの使い分けに編集者の気遣いがほしい。

(匿名希望)

■表紙の新しいデザインはカラフルで見やすいと思います。しかし、たとえば色覚に異常がある人が見たらどのように見えるのか、見づらくないのか非常に気になります。個人的に、生まれつき色覚に異常がある学生を教えたことがあります。色チョークの使い方に制約があることを知り、とても驚きました。色覚異常の発現する割合は日本人の場合第1・第2異常を合わせて男性で約5%、女性で約0.2%であると聞いています。約5%ということは、20人に1人なので、学会の会員にも相当数いらっしゃるようになります。こうした方々にも配慮した学会運営が求められるのではないのでしょうか。

(水野光朗)

■大学の研究室紹介(1回あたり数教室)を連載で取り上げてほしいと思います。(匿名希望)

■暗号技術の最近の動向を紹介してほしい。(匿名希望)

【本欄担当 林 雄介, 大槻知史/書評・ニュース分野】

これらのコメントは Web 版会員の広場「読者からの声」<URL:<http://www.ipsj.or.jp/07editj/dokusha/dokusha.html>>に掲載していますので、そちらもご参照ください。会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会 Web ページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、

- ・記事に対する感想、意見
- ・記事テーマの提案
- ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
- ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言

など自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

なお、「道しるべ」については

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/07editj/toukou/michishirube/michishirube.html>> で

これからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

※ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝または記念品を進呈いたします。

掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。なお、意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いたします。

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/03somu/privacypolicy/privacypolicy.html>>

応募先 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
情報処理学会 会誌編集部門
E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375
<https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enquete.html>

ご意見をお寄せ
ください!!



IPSJ カレンダー

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
2009年				
	論文誌「インタラクションの基盤技術, デザインおよび応用」 特集への論文投稿 論文誌「インタラクションの基盤技術, デザインおよび応用 (テクニカルノート)」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-L-10-M.html	4月20日(月)		
	論文誌「サイバーコミュニケーション環境を実現する ネットワークサービス」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/10-P.html	5月11日(月)		
	論文誌「マルチメディア, 分散, 協調とモバイルシステム」 特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/10-N.html	5月18日(月)		
	論文誌「身近になる情報システム—理論と実践—」特集への 論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/10-Q.html	5月18日(月)		
	論文誌「多様なネットワークサービスの統合・連携に向けた インターネットと運用管理技術」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/10-R.html	5月28日(木)		
	論文誌「ユビキタスコンピューティングシステム (III)」 特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/10-T.html	7月1日(水)		
4月20日(月)	北海道支部平成21年度支部通常総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			北海道大学大学院 情報科学研究科
4月22日(水) ~ 4月24日(金)	第175回計算機アーキテクチャ・第111回システムソフト ウェアとオペレーティング・システム合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/ARC175OS111.html	2月19日(木)	当日のみ	沖縄県青年会館
5月7日(木) ~ 5月8日(金)	第49回モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/MBL49.html	3月10日(火)	当日のみ	宮古島マリンターミ ナル
5月8日(金)	九州支部平成21年度支部通常総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			熊本大学(予定)
5月11日(月)	東海支部平成21年度支部通常総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			ルブラ王山
5月11日(月)	第124回アルゴリズム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/AL124.html		当日のみ	東京大学 医科学研究所
5月15日(金)	四国支部平成21年度支部通常総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			高知市内(詳細未定)
5月15日(金)	第22回ユビキタスコンピューティングシステム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/UBI22.html	3月16日(月)	当日のみ	奈良県新公会堂
5月16日(土)	北陸支部平成21年度支部通常総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			金沢工業大学
5月21日(木) ~ 5月22日(金)	第80回音楽情報科学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/MUS80.html	3月19日(木)	当日のみ	筑波大学 春日キャンパス
5月21日(木) ~ 5月22日(金)	第72回グループウェアとネットワークサービス研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/GN72.html	3月19日(木)	当日のみ	早稲田大学 理工学部
5月22日(金)	中国支部平成21年度支部通常総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			広島大学東千田キャン パス(予定)
5月22日(金)	関西支部平成21年度支部通常総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			キャンパスプラザ京都
5月22日(金)	第13回エンタテインメントコンピューティング研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/EC13.html	3月27日(金)	当日のみ	筑波大学 筑波キャンパス
5月23日(土)	第82回人文科学とコンピュータ研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/CH82.html		当日のみ	東京大学 本郷キャンパス
5月26日(火) ~ 5月27日(水)	第17回バイオ情報学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/BIO17.html	3月22日(日)	当日のみ	OIST SeasideHouse (沖縄県)
5月27日(水)	東北支部平成21年度支部通常総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			東北大学
5月29日(金)	情報処理学会第53回通常総会 http://www.ipsj.or.jp/03somu/rijikai_sohkai/sohkai/soukai2009-tujyo53.html			如水会館
5月28日(木) ~ 5月29日(金)	第5回インターネットと運用技術研究発表会 http://iot.ipsj.or.jp/news/iot05-cfp	3月16日(月)	当日のみ	香川大学 幸町キャンパス
5月28日(木) ~ 5月29日(金)	第164回ソフトウェア工学・第45回コンピュータセキュリティ 第13回組込みシステム合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/SE164CSEC64EMB13.html	3月23日(月)	当日のみ	インターネットイニ シアティブ (千代田区)

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
5月28日(木)～	先進的計算基盤システムシンポジウム (SACSIS2009)	3月31日(火)		広島国際会議場
5月29日(金)	http://www.hpcc.jp/sacsis/2009/			
6月5日(金)	第44回電子化知的財産・社会基盤研究発表会	3月15日(日)	当日のみ	早稲田大学 大久保Campus
	http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/EIP44.html			
6月12日(金)	第120回ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会	4月10日(金)	当日のみ	宇宙航空研究開発 機構
	http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/HPC120.html			
6月25日(木)～	Visual Computing/グラフィクスとCAD合同シンポジウム	3月9日(月)		旭川市勤労者福祉 総合センター
6月26日(金)	2009			
	http://www.pluto.ai.kyutech.ac.jp/vc2009/			
6月27日(土)	第6回インターネットと運用技術研究発表会	4月20日(月)	当日のみ	東京農工大学 小金井キャンパス
	http://iot.ipsj.or.jp/news/iot06-cfp			
7月8日(水)～	マルチメディア、分散、協調とモバイル (DICOMO2009)	3月13日(金)		別府温泉 杉之井ホテル
7月10日(金)	シンポジウム			
	http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/DICOMO2009.html			
7月20日(月)～	SAINT2009 The 2009 Symposium on Applications and the Internet			Seattle, USA
7月24日(金)	http://www.saintconference.org/			
7月25日(土)～	第83回人文科学とコンピュータ研究発表会	3月19日(木)	当日のみ	帝塚山大学 東生駒キャンパス
7月26日(日)	http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/CH83.html			
7月29日(水)～	第81回音楽情報科学研究発表会	5月29日(金)	6月末頃の予定	飯坂温泉(福島県)
7月31日(金)	http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/MUS81.html			
8月20日(木)～	平成21年度電気関係学会東北支部連合大会開催案内	6月12日(金)	6月12日(金)	東北文化学園大学 (仙台市・青葉区)
8月21日(金)	http://www.ipsj.or.jp/03somu/shibu/tayori/tayori.html			
8月26日(水)～	DAシンポジウム2009 - システムLSI設計技術とDA -	5月7日(木)		ホテルアローレ (石川県)
8月27日(木)	http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2009/S-DA2009.html			
9月2日(水)～	FIT2009第8回情報科学技術フォーラム			東北工業大学
9月4日(金)	http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2009/			八木山キャンパス
10月28日(水)～	IWSEC2009 International Workshop on Security			富山国際会議場
10月30日(金)	http://www.iwsec.org/2009/			
2010年				
	東海支部学生研究発表会助成	2月28日(日)		
	http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/			

Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 更新情報

[トピックス]

- 3月16日 人材募集情報(3月)更新しました
- 3月2日 情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館のページを更新しました

人材募集 (有料会告)



申込方法: 任意の用紙に件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書宛先、Web掲載の有無などを記載し、掲載希望原稿〔募集職種、募集人員、(所属)、専門分野、(担当科目)、応募資格、着任時期、提出書類、応募締切、送付先、照会先〕を添えて下記の申込先へE-mail、Faxまたは郵送にてお申し込みください。
*都合により編集させていただく場合がありますので、ご了承ください。

申込期限: 毎月15日を締切日とし翌月号(15日発行)に掲載します。

掲載料金: 国公立教育機関、国公立研究機関 21,000円(税込)
賛助会員(企業) 31,500円(〃)
賛助会員以外の企業 52,500円(〃)
*本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り、追加料金4,000円で同一内容を本会Webページに掲載できます。

申込先: 情報処理学会 会誌編集部門(有料会告係) E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375
*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。

*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと

■岐阜大学工学部応用情報学科

募集人員 准教授 1名
専門分野 情報工学(視覚情報処理, 知能情報処理分野)
応募資格 博士の学位を有し、情報工学(視覚情報処理, 知能情報処理分野)で研究業績があり、大学院博士後期課程の教育・研究指導ができる方
着任時期 平成21年7月1日以降のできるだけ早い時期
提出書類 履歴書, 研究業績リスト(論文, 著書, 特許など, 教育・管理運営などに関する実績があればあわせてお書きください), 外部資金の取得実績等, 主要論文別刷(3編), これまでの研究概要と今後の計画(A4用紙1枚程度), 学部および大学院教育に対する抱負(A4用紙1枚程度), 参考意見を伺える方2名の氏名と連絡先, その他特記すべきこと(学会活動, 社会活動等)
応募締切 平成21年5月11日(必着)
送付先 〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学工学部応用情報学科 速水 悟 E-mail:hayamizu@gifu-u.ac.jp Tel(058)293-2710 Fax(058)293-2709 「応用情報学科教員応募書類」と朱書し簡易書留 *特に要望のない限り, 提出いただいた書類は当方にて廃棄させていただきます

■電気通信大学電気通信学部情報工学科コンピュータ学講座

募集人員 助教 1名(任期5年, ただし再任により2年以内の延長は可能)
専門分野 メディア情報学(マルチメディア処理, 音処理, 画像処理, テキスト処理, インタラクティブシステムなど)
担当科目 (1)実験, 演習, 情報処理基礎科目等の授業担当 (2)卒業研究学生, 大学院生への研究指導補佐
応募資格 着任時において博士の学位を有すること(なお応募時には学位取得見込みでも可)
着任時期 平成21年10月1日以降のなるべく早い時期
提出書類 履歴書(含連絡先E-mailアドレス), 研究業績リスト(次のように分類: 1. 著書, 2. 査読付き雑誌論文, 3. 国際会議論文, 4以降の項目として, その他の論文, 招待講演, 解説, 特許, 外部資金獲得状況など), 主要論文等別刷(3編, コピー可), 研究・教育に関する業績の概要と今後の計画(A4用紙3枚程度, この中に博士論文の題名と内容概要(博士の学位を取得見込みの方は予定で結構です)を入れてください), 本人の所見が得られる方の名前と連絡方法(2名), 博士の学位を取得見込みの方は指導教員の推薦状1通 ※これらの原本一揃をA4用紙(片面)にコピーして, それらのコピー1部を原本一揃とともに送付してください。また, 選考結果のお知らせ用に, 宛先を記した定形封筒(80円切手貼付)を同封してください
応募締切 平成21年5月29日(必着)
送付先 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 電気通信大学電気通信学部情報工学科 学科長 阿部公輝
「コンピュータ学講座助教公募書類」と朱書し簡易書留 *提出書類はご返却いたしませんのであらかじめご了承ください
照会先 情報工学科コンピュータ学講座 教授 尾内理紀夫 郵便またはE-mail (onai@cs.uec.ac.jp)で連絡してください
その他 詳細についてはWebページ (<http://www.cs.uec.ac.jp/koubo/c0903.html>)を参照のこと
【選考方法】書類選考の後, 必要に応じて面接を行います

■鳥取大学大学院工学研究科情報エレクトロニクス専攻

- 募集人員 准教授または講師 1名
 所 属 知能情報工学講座
 専門分野 計算機工学に関する分野
 担当科目 (大学院)情報ネットワーク等に関する科目
 (学部)情報ネットワーク, 計算機構成論, アルゴリズム論等の知能情報工学科の開設科目
 応募資格 博士の学位を有すること。専門分野に関する十分な研究業績を持ち, 教育, 研究および専攻運営に熱意があり, 大学院博士後期課程を担当できること
 着任時期 平成21年10月1日以降のなるべく早い時期
 提出書類 履歴書(様式1), 教育歴(様式2), 研究歴(様式3), その他の活動歴(様式4), 着任後の抱負(様式5), 研究業績リスト(様式6), 所見を伺える方2名の照会先または推薦状(2通, 様式7), 主要査読付き学術論文別刷(5編程度, コピー可)
 ※公募の詳細については, 必ず鳥取大学Webページ (<http://akebia.jim.tottori-u.ac.jp/info/koubo.html>) を参照してください
 応募締切 平成21年5月29日(必着)
 送付先/照会先 〒680-8552 鳥取県鳥取市湖山町南4-101 鳥取大学大学院工学研究科情報エレクトロニクス専攻
 知能情報工学コース長 水本 洋 E-mail:mizu@ike.tottori-u.ac.jp Tel/Fax(0857)31-5214
 「教員応募書類在中」と朱書き簡易書留または宅配便
 そ の 他 【選考方法】専攻内選考(1次:書類審査, 2次:面接)および研究科内選考

■電気通信大学電気通信学部情報工学科

- 募集人員 助教 1名
 所 属 計算機応用学講座
 専門分野 最適化アルゴリズムとその応用(非線形最適化, 組合せ最適化, 最適化ソフトウェアなど)
 担当科目 本学Webページの公募情報 (<http://www.cs.uec.ac.jp/koubo/a0903.html>) の内容をご確認ください
 応募資格 博士の学位を有すること, あるいは着任時までに取得見込みであること
 着任時期 平成21年9月1日以降のなるべく早い時期
 提出書類 本学Webページの公募情報 (<http://www.cs.uec.ac.jp/koubo/a0903.html>) の内容をご確認ください
 応募締切 平成21年6月5日(必着)
 送付先 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 電気通信大学電気通信学部 情報工学科科長 阿部公雄
 「情報工学科公募書類」と朱書き簡易書留
 照会先 情報工学科 教授 小林 聡 E-mail:satoshi@cs.uec.ac.jp Tel(042)443-5315

■松江工業高等専門学校情報工学科

- 募集人員 教授・准教授・講師・助教のいずれか 1名
 専門分野 情報工学(画像処理, メディア情報処理など)
 担当科目 メディア情報工学, プログラミング等
 応募資格 原則として採用時までに博士の学位を有し, 高等専門学校における教育・研究に強い意欲があり, 学生指導に理解と情熱の持てる方
 着任時期 採用決定後, できる限り早期(遅くとも, 平成22年4月1日)
 提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 主要論文別刷(コピー可), これまでの研究概要(A4用紙1枚1000字程度), 教育・研究・学生指導等に対する抱負(A4用紙で1000字程度), 推薦状または紹介状(自薦も可)
 応募締切 平成21年6月26日(必着)
 送付先 〒690-8518 鳥根県松江市西生馬町14-4 松江工業高等専門学校 総務課人事・労務係 Tel(0852)-36-5112
 「情報工学科教員応募」と朱書き書留
 照会先 学科長 福岡久雄 E-mail:fukuoka@matsue-ct.ac.jp Tel(0852)36-5211
 そ の 他 【選考方法】書類審査, およびその合格者に対して面接(模擬授業を含む)
 詳細は本校Webページ (<http://www.matsue-ct.jp/>) をご覧ください

■神奈川工科大学情報ネットワーク・コミュニケーション学科

募集人員	教授または准教授 2名
専門分野	情報セキュリティ
担当科目	ネットワークセキュリティ, 情報セキュリティマネジメント, 情報セキュリティと法制度, インターネット関連科目, 情報ネットワーク実験など(予定)
応募資格	当該分野における教育あるいは実務経験が豊富であること, 博士号取得者または取得見込みであること
着任時期	平成22年4月1日あるいはこれ以前の着任可能時期
提出書類	履歴書(学会および社会における活動, 経験業務内容などもあれば記載), 研究業績リスト(査読付き学術論文, 国際会議, 口頭発表論文, 著書, 特許等に分けて記載), 主要論文別刷(3編以内), 教育および研究に対する抱負(各1000字程度), 推薦書(または所見を求め得る方1名以上の氏名と連絡先)
応募締切	平成21年6月30日(必着)
送付先	〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030 神奈川工科大学 庶務担当部長気付 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 教員選考委員長 「情報ネットワーク・コミュニケーション学科教員応募」と朱書き書留
照会先	情報ネットワーク・コミュニケーション学科 教授 上平員丈 E-mail:uehira@nw.kanagawa-it.ac.jp Tel(046)291-3281

■各種問合せ先■

(社) 情報処理学会 (本部) ※支部所在地等詳細はリンクされている各支部ページでご参照ください。
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F Fax(03)3518-8375 <http://www.ipsj.or.jp/>

担当	E-mail	Tel (ダイヤルイン)	取り扱い内容
■会員サービス部門			
会員	mem@ipsj.or.jp	03-3518-8370	入会, 会費, 変更連絡, 退会, 在会証明, 会員証, 会費等口座振替, 海外からの送金
■会誌編集部門			
会誌編集	editj@ipsj.or.jp	03-3518-8371	会誌「情報処理」の掲載内容, 広告掲載, 転載許可, 出版, 著作権
■研究部門			
論文誌	editt@ipsj.or.jp	03-3518-8372	論文誌(ジャーナル)の編集・査読
調査研究/教育	sig@ipsj.or.jp		研究会登録, 研究発表会, シンポジウム, 研究グループ, 論文誌(トランザクション)
■事業部門			
事業/国際	jigyo@ipsj.or.jp	03-3518-8373	全国大会, FIT, 連続セミナー, プログラミング・シンポジウム, 国際会議, IFIP委員会
■管理部門			
総務	somu@ipsj.or.jp	03-3518-8374	理事会, 支部, 役員選挙, 名誉会員
経理	keiri@ipsj.or.jp		出納, 送金連絡
システム企画	sys@ipsj.or.jp		システム企画, 電子化委員会, 電子図書館, IPSJメールニュース
図書	tosho@ipsj.or.jp		出版物購入
■情報規格調査会			
規格部	standards@itscj.ipsj.or.jp		標準化フォーラム 〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館308-3 Tel (03)3431-2808 Fax (03)3431-6493 http://www.itscj.ipsj.or.jp/

ご意見をお寄せください！

【5月10日頃までにお出しください】

宛先 (社) 情報処理学会 モニタ係 (下記のいずれからも送付できます)

<http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enq5004.html> Fax(03)3518-8375 E-mail:editj@ipsj.or.jp

(E-mail で送信される場合は、10-1-a のようにコードでお答えください)

※ご意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いたします。
<http://www.ipsj.or.jp/03somu/privacypolicy/privacypolicy.html>

[コード]

1. ご氏名
2. ご所属 Tel. () -
3. E-mail:
4. 業種：(a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (大学・高専など)
(e) 学生 (f) その他 4-
5. 職種：(a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務
(f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教官/教員 (大学・大学院) (h) 教職員 (小・中・高校・高専など)
(i) 学生 (j) その他 5-
6. 年齢：(a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上 6-
7. 性別：(a) 男性 (b) 女性 7-
8. あなたはモニタですか？：(a) はい (b) いいえ 8-
9. あなたのご意見は「会員の広場」(会誌および Web) に掲載される場合があります。その場合：
(a) 実名可 (氏名のみ掲載) (b) 匿名希望 (c) 掲載を希望しない 9-
10. 今月号 (2009年4月号) の記事についてのあなたの評価をご記入ください。
[a…大変参考になった b…よい c…普通、どちらとも言えない d…悪い e…読んでいない]

特集：ソフトウェア再利用の新しい波

1. プロダクトライン開発の全体像と要求工学 10-1-
2. プロダクトラインの可変性管理 10-2-
3. プロダクトライン開発への移行技術 10-3-
4. ソフトウェアプロダクトライン開発のマネジメント：課題と技法 10-4-
5. 組込みシステムにおけるソフトウェアプロダクトラインの導入 10-5-
6. エンタープライズ・システムにおけるソフトウェアプロダクトラインの適用 10-6-
- IMS：新しいコミュニケーションスタイルの実現 (第1回) 10-7-
- 実利用が進む顔画像処理とその応用事例 (前編) 顔画像処理技術の動向 10-8-
- タッチパネル方式によるヒューマンインタフェースの研究最前線 10-9-
- リコメンド・サービス・コンテスト実施報告 10-10-
- 数式処理と数値計算の融合 10-11-
- わが支部の魅力はここにあり：四国支部：四国支部の現状報告 (四国はひとつ、.. ずつ) 10-12-

11. 特に興味を持ってお読みになった記事とその感想をお書きください。

12. 著者への質問、今後取り上げて欲しいテーマなどありましたらお書きください。

本特集に着手したのは約1年前である。昨年4月に新規に本誌編集委員となり、編集長から「企画を出してください」という依頼があった。いきなり専門外のテーマはハードルが高いので、プロダクトライン開発を含む開発方法論という自身の研究をベースに、ソフトウェア製品開発に携わる産学双方の読者に向けた企画を思い立った。プロダクトライン技術は研究途上ではあるが、さまざまな適用事例がすでに報告されているので、本技術のサーベイは、情報処理技術に携わる多くの読者にも有用と考えた。また、本誌2007年2月号に、本特集の執筆者でもある吉村氏によって、プロダクトラインの解説記事が掲載されている。この記事はとても分かりやすくまとめられており、筆者の研究業務に大いに参考になっているので、解説記事のその後を特集にするのも望ましいと考えた。

企画に際し、プロダクトライン技術をご専門とする岸先生にゲストエディタをお願いしたところ快諾してくださり、記事の構成の検討と執筆者の紹介をしてくださった。執筆者は大学と企業の双方から構成され、要素技術と適用事例の内容となったので、良いバランスになったと思っている。

執筆開始は年明けからとなったが、執筆完了までの間に、大学入試、年度末業務、さらに各種論文原稿の締切が重なり、全原稿が揃ったのは3月を過ぎてしまっていた。2月が28日しかなかったのは痛かった。そんな多忙を極める中、岸先生をはじめ執筆者の方々には、良い記事にすべく、快く修正・改善に対応してくださり、本当に感謝している。

今回のプロダクトライン技術についての特集によって、現状技術と、実際に適用範囲を拡大するための課題を浮かび上がらせることができたと思っている。今後、本特集をベースにして、プロダクトラインへの理解が深まり、議論が活発化し、要素技術を掘り下げる研究者やプロダクトラインに取り組む企業が増えることを願っている。次にプロダクトラインの特集を企画する際には、景気も回復して、企業がどんどんプロダクトラインへ投資できるようになっていることを希望している。

最後に、エディタの岸先生、執筆者の方々、編集長、編集委員の皆様、事務局の皆様、特集がまとまりましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

(位野木万里/本特集エディタ)

次号(5月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」ソフトウェアレビュー、インスペクションと欠陥予防の現在

ソフトウェアインスペクションの動向/ソフトウェアインスペクションの効果と効率/上流品質向上に関するソフトウェア評価技術の国際標準化動向/上流工程における発注者視点からの品質向上への取り組み/第三者インスペクションによる品質検査と欠陥予防/テストエンジニアが参加するアジャイルインスペクション

解 説

- IMS: 新しいコミュニケーションスタイルの実現~次世代ネットワークのサービス基盤 IP Multimedia Subsystem (第2回) 小田稔周 他
- 可視光通信の現状と展望(仮) 鈴木修司
- 実利用が進む顔画像処理とその応用事例(後編) 顔画像処理の応用事例 勞 世竝 他
- 知的 Web のためのマッシュアッププログラミング 新谷虎松 他

報 告

- 情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定式 和田英一

コラム わが支部の魅力はここにあり

複写される方へ

本会は下記協会に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写したい方は、同協会より許諾を受けて複写してください。ただし、(社)日本複写権センター(同協会より権利を再委託)と包括複写許諾契約を締結されている企業の社員による社内利用目的の複写はその必要はありません(社外頒布用の複写は許諾が必要です)。権利委託先:(中法)学術著作権協会
〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル
E-mail: info@jaacc.jp Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619
なお、著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、学術著作権協会では扱っていませんので、本会へご連絡ください。

また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡してください。
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

Notice for Photocopying

If you wish to photocopy any work of this publication, you have to get permission from the following organization to which licensing of copyright clearance is delegated by the copyright owner.

<All users except those in USA>
Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan
E-mail: info@jaacc.jp
Phone: 81-3-3475-5618 Fax: 81-3-3475-5619

<Users in USA>
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

広告のお申込み

■広告料金表

掲載場所	4色	2色	1色
表2	346,500円 (税抜330,000円)	—	—
表3	288,750円 (税抜275,000円)	—	—
表4	404,250円 (税抜385,000円)	—	—
表2対向	315,000円 (税抜300,000円)	—	—
表3対向	278,250円 (税抜265,000円)	199,500円 (税抜190,000円)	162,750円 (税抜155,000円)
前付1頁	262,500円 (税抜250,000円)	173,250円 (税抜165,000円)	141,750円 (税抜135,000円)
前付1/2頁	—	—	84,000円 (税抜80,000円)
前付最終	—	—	155,400円 (税抜148,000円)
目次前	—	—	155,400円 (税抜148,000円)
差込 (A判70.5kg未満 1枚)	288,750円 (税抜275,000円)		
差込 (A判70.5kg～86.5kg 1枚)	367,500円 (税抜350,000円)		
同封 (A判 1枚)	367,500円 (税抜350,000円)		

■「情報処理」

発行 社団法人 情報処理学会
 発行部数 25,000部
 体裁 A4判
 発行日 毎当月15日
 申込締切 前月10日
 原稿締切 前月20日
 広告原稿 オフセット用ポジフィルム
 原稿寸法 1頁 天地260mm×左右180mm
 1/2頁 天地125mm×左右180mm
 雑誌寸法 天地297mm×左右210mm

■問合せ・お申込み先

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27
 アドコム・メディア(株) (Tel/Fax/E-mailは下に記載)

*左記料金はポジフィルム納入による料金です。
 *版下・製版等が必要な場合には別途実費申し受けます。
 *断切広告は上記料金の10%増です。ただし、表4は不可。
 *同封のサイズ・割引の詳細についてはお問合せください。

掲載広告の資料請求

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、ご希望の会社名にチェック☑を入れ、送付希望先をご記入の上、Faxにて（またはE-mailにて必要事項を記入の上）アドコム・メディア(株)宛にご請求ください。

■「情報処理」 50巻4号 掲載広告（五十音順）

- | | | | |
|--|-------|---|-------|
| <input type="checkbox"/> インタフェース..... | 表2 | <input type="checkbox"/> 培風館..... | 前付最終上 |
| <input type="checkbox"/> オーム社..... | 表2対向 | <input type="checkbox"/> モバイル・コミュニケーション・ファンド..... | 表4 |
| <input type="checkbox"/> 画像情報教育振興協会..... | 同封 | <input type="checkbox"/> リード エグジビション ジャパン..... | 同封 |
| <input type="checkbox"/> サイエンス社..... | 目次前 | | |
| <input type="checkbox"/> 情報通信研究機構..... | 前付最終下 | | |
| <input type="checkbox"/> すべての会社を希望 | | | |

■資料送付先

フリガナ
お名前 _____

勤務先 _____ 所属部署 _____

所在地 (〒 _____) _____

TEL (_____) _____ - _____ FAX (_____) _____

ご専門の分野 _____



お問合せ・お申込み・資料請求は

広告総代理店 **アドコム・メディア(株)**

Tel.03-3367-0571 Fax.03-3368-1519 E-mail: sales@adcom-media.co.jp



賛助会員のご紹介

本会をご支援いただいております賛助会員をご紹介します。

Web サイト (<http://www.ipsj.or.jp>) 「会員サービス」のページからも各社へリンクサービスを行っておりますので、ぜひご覧ください。

照会先 (社) 情報処理学会 会員サービス部門 E-mail:mem@ipsj.or.jp Tel.(03)3518-8370

●●● 賛助会員 (20 ~ 50口)

HITACHI
Inspire the Next

(株) 日立製作所

FUJITSU

富士通 (株)

NEC

日本電気 (株)

TOSHIBA

(株) 東芝

IBM

日本アイ・ビー・エム (株)

MITSUBISHI
Changes for the Better

三菱電機 (株)

●●● 賛助会員 (10 ~ 19口)



株式会社NTTデータ
(株) NTT データ

Google

グーグル (株)

docomo

(株) NTT ドコモ

NTT

日本電信電話 (株)

Microsoft

マイクロソフト (株)

●●● 賛助会員 (3 ~ 9口)



NTTコムウェア
(株) NTT コムウェア

OKI

沖電気工業 (株)

impress

(株) インプレス IT

uejima SONY

(株) うえじま企画

ソニー (株)

コトバウチュウ

(株) ニューズウォッチ

Panasonic
ideas for life

パナソニック (株)

楽天

楽天 (株)

読後のご意見をお送りください

本誌では、現在約 100 名の方々に毎号のモニタをお願いしておりますが、より多くの読者の皆さんからのご意見、ご提案をおうかがいし、誌面の充実に役立てていきたいと考えておりますので、毎号巻末に掲載しております所定の用紙または Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enquete.html>) をお使いいただき、奮って事務局までお寄せください。

(社) 情報処理学会 会誌編集部

〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax (03)3518-8375